

会長メッセージ

学術会議を担う新たな会員・連携会員の推薦について

1. 会員・連携会員選考制度の変遷とコ・オペレーション

明けましておめでとうございます。今年9月までの第22期も、提言等のまとめの段階に入りました。並行して、次期に向けた会員・連携会員の選考が本格化します。我が国の科学者を内外に代表するとされる日本学術会議では、会員選考をめぐって、これまで大きな制度改革が行われ、そのあり方そのものに少なからぬ影響を与えてきました。会員・連携会員が委員会を構成し、テーマを選び、審議を通じて勧告や提言をまとめて公表するのですから、誰が会員・連携会員に選ばれるのかが、活動内容に大きな影響を与えるのは当然です。

最初の制度は、国内科学者による選挙によって会員を選ぶもので、30年間続きました。しかし、選挙が激化する等の批判が強まったために日本学術会議法が改正され、第13期からは、学協会による推薦によって分野毎に推薦人と会員候補者を選んだ上で、後者のうちから前者が推薦するという制度に変わりました。ところが、今度は学協会の「利益代表」的な議論が多くなって、学際的な観点から、社会に提言するという姿勢が弱くなったとの批判が生じ、再び法改正により、第20期から現在のコ・オペレーション制度に変わったのです。現制度は、現会員・連携会員が、任期満了者に代わる次期の会員・連携会員を選ぶもので、選考基準は「優れた研究又は業績がある科学者」と明確に定められています。そして、会員については日本学術会議が選考した候補者を内閣総理大臣に推薦し、その推薦に基づいて内閣総理大臣が任命することになっています。また連携会員については、日本学術会議会長が任命します。

2. コ・オペレーション制度の適切な活用

こうした経緯を踏まえれば、これまでの制度や、他の考えられる制度に比べて、現在の制度が優位性を持つか否かは、現会員・連携会員による推薦及び選考が適切に行われることに掛かっていることは明らかです。選考基準は前述の通りですが、コ・オペレーションは、その仕組みから考えて、資質の高い「後継者」を選ぶことに適していても、現在のメンバーが属する集団と異なる集団からメンバーを選ぶことには必ずしも適していません。換言すれば、多数派が再生産される保守的な傾向を持つといえます。その結果、安定性はあるものの、変化が必要な時に、対応が遅れる嫌いがあると考えられます。

これを補うためには、推薦に際して、いわば少数派になりがちな属性に意識的に目配りをして、その中から優れた科学者を推薦するように心がけることが重要です。具体的には、①優れた女性科学者を積極的に推薦すること、②関東、近畿、中部等、特にその中の大都市に偏りがちなので、それ以外の地域で活躍する優れた科学者を推薦すること、③大学の研究者だけではなく、公私の研究機関等に勤務する優れた科学者を推薦すること、④境界領域の研究分野、新たに生まれた研究分野等、現役メンバーが少ない分野から優れた科学者を推薦すること、そして、⑤今回から新たに発足する若手アカデミーの

中心となる優れた若手研究者を発掘して、特に連携会員として推薦すること、をお願いしています。もちろん、全体を貫く唯一の選考基準は「優れた研究又は業績がある科学者」に尽きるのですが、その条件を満たした上で学術会議メンバーの多様性を担保するために、条件に合う人材を広く探して推薦していただきたいというのが私からのお願いです。

3. 日本学術会議を支える新人発掘のための推薦

これらのお願いは、既に、文書で皆様にお送りしていますのでご参照下さい。

その上で以下の2点を強調します。

- (1) 選考過程の出発点として皆様をお願いしている推薦は、現在は会員・連携会員ではない方々（現在の特任連携会員を含みます）を新たに会員・連携会員の候補者（選考対象者）とするために行われます。現在の会員・連携会員は、継続か、本人の意思により候補者となるので、改めて推薦する必要はありません。是非、幅広く周囲を見渡して、現在の特任連携会員を含む、新たな人材の推薦をお願いします。
- (2) 会員・連携会員を推薦するに当たっては、日本学術会議の活動に熱心に取り組むと期待できる方々を選ぶよう留意して下さい。日本学術会議は、提言等の発出や国際活動等を通じて広く国内外の役に立とうとしているのですから、良識と見識を持って、審議をはじめとする諸活動に積極的に参加し、提言をまとめ、普及させたり、学術分野の国際交流を進めたりする活動に指導力を発揮する方々で会員・連携会員が構成されることが、その発展のために不可欠です。会員・連携会員に就任することは了承するが、就任後に日本学術会議の仕事をすることを想定していないという方は、会員・連携会員にふさわしくないことはいうまでもありません。

会員・連携会員の推薦に当たってのお願い事項が多くなりましたが、選考過程の基礎となる推薦の重要性をご理解の上で、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、予め準備していただく推薦書は、日本学術会議のホームページ中の選考委員会の項に用意しています。

<http://www.sci.go.jp/ja/member/iinkai/senko/index.html> 中の「第23-24期会員・連携会員候補者の推薦について」です。

1人の会員・連携会員が推薦できる候補者数は、最多で5人、そのうち会員候補者に推薦できるのは2人以内です。

この件についての問い合わせは、以下の担当をお願いします。

日本学術会議事務局企画課選考担当（電話：03-3403-1081、E-mail：as258@sci.go.jp）

2014年1月8日
日本学術会議会長 大西隆